

## 4. 会誌及び著書の出版

### 4-1 機関誌の発行

本協会の目的達成に必要な情報を企画・収集・編集し、関係者の理解の普及を推進拡大することを目的として、機関誌「大学教育と情報」の発行、インターネットによる情報公開を通じて、大学関係者、社会に対して事業への理解を普及するため、これまでの運営組織「広報委員会」を改組して、「事業普及委員会」（委員長：今泉 忠、多摩大学）を設置した。また、機関誌に掲載する海外情報として欧米を中心とした文献等の翻訳を組織的に対応するため、同委員会に「翻訳分科会」（主査：山本涼一、帝京科学大学）を新たに設置した。

#### (1) 会誌「大学教育と情報」の発行

本年度は、「Vol.17 No.1」～「Vol.17No.4」を発行した。発行部数は21年3月末現在、全国の私立大学・短期大学・当協会賛助会員、関係省庁及び関係団体・関係機関を中心に19,600部となっている。編集は、読者に魅力ある会誌となるよう、次の点を基調として発刊している。

- ① 教育改善のためのファカルティ・ディベロップメントの参考となるよう、ITの活用を含む教育方法の工夫・改善、教職員一体となった教育改革、組織的な教育支援の取り組み、社会との連携など、教育改革を実現するための情報誌として活用されるよう、企画・編集する。
- ② 社会情勢に照らし、国・大学・企業関係者に周知又は理解を求める喫緊の課題、対応策などを特集として取り上げ、随時、情報提供する。
- ③ 組織としての教育支援やIT活用の取り組みとして、教育支援システムや教育での活用効果・課題等を「教育・学習支援への取り組み」として、継続して掲載する。
- ④ 学問分野別の教育改善のためのIT活用事例を継続して紹介する。
- ⑤ 海外情報として、即時性を重視し、話題性のある内容を翻訳あるいは抄訳して掲載する他、海外の大学訪問やカンファレンス参加のレポートを掲載する。

#### (2) 会誌「大学教育と情報」Vol.17 No.1～Vol.17 No.4の掲載内容

以下に、20年度に4回発行の内容を掲載する。

##### 【大学教育と情報 (No1.17 No.1)】

- ・ 巻頭言「立正大学における教育システムの再構築への取り組み」 山崎 和海
- ・ 特集「社会に支援を求める～教育現場から」 私立大学情報教育協会
- ・ 人材育成のための授業紹介：コミュニケーション関係学  
「プロジェクトベースの教育～プロジェクトのコンテクストから  
学ぶICTとマーケティング・コミュニケーション～」 北根 精美
- 「ネットワーク上でのコミュニケーショントレーニング  
～Net Meeting使用によるグループワークと表現力の開発事例～」 飯塚 順一
- ・ 教育・学習支援への取り組み 東海大学／福岡大学
- ・ FD研究

「会計学教育FD/IT活用研究集会報告～社会人に求められる会計力～」

「薬学教育FD/IT活用研究集会報告～薬学5・6年次教育を考える～」

- ・投稿「学生カルテシステム（SRMS）の運用と効果」 八尋 剛規
- ・私情協ニュース
- ・賛助会員だより

【大学教育と情報（No1.17 No.2）】

- ・巻頭言「中教審の「学士課程教育の構築に向けて（答申案）」に思うこと」 原文雄
- ・特集「社会に支援を求める～教育現場から」 私立大学情報教育協会
- ・人材育成のための授業紹介：土木工学  
「講義科目への予復習システム導入効果とICT教育の位置づけ」 北詰 恵一

「時空間集合知を生み出す学びを目指して～環境システム工学科におけるIT教育の実践～」

笹谷 康之

- ・教育・学習支援への取り組み 玉川大学／湘南工科大学
- ・研修事業報告
- ・賛助会員だより

【大学教育と情報（No1.17 No.3）】

- ・巻頭言「和洋女子大学のルネッサンス」 坂本 元子
- ・特集「分野別学士力の提言」 私立大学情報教育協会
- ・産学連携「NPO CCC-TIESによる産学連携「産経eカレッジみんなde大学」の報告」 中嶋 航一、堀 真寿美、細谷 征爾
- ・人材育成のための授業紹介：栄養学  
「栄養学分野における講義収録システムによる教材作成とコンテンツの活用」 松浦 寿喜
- 「ICTを利用したインタラクティブな授業設計」 衣笠 治子
- ・教育・学習支援への取り組み 立命館大学／法政大学
- ・海外ニュース「2007年ヘルシンキ滞在記」 西村 昭治
- ・研修事業報告

【大学教育と情報（No1.17 No.4）】

- ・巻頭言「大学改革に向けて情報システムの在り方を思う」 三角 哲生
- ・特集「連携で学生を創る」  
「連携で学生を創る」 今泉 忠  
「地域連携・産学連携と大学の発展～静岡産業大学の実践～」 大坪 檀  
「大学間連携とeラーニングによる教養教育の推進」 本郷優紀子  
「地域連携活動による社会人基礎力の養成～サービスラーニングによる学生支援の総合化～」 高野 敏樹
- ・人材育成のための授業紹介：スポーツ科学  
「体育系講義科目におけるICT活用と協同学習」 久保田秀明  
「スポーツ学におけるIT活用事例の方向性」 高橋 正行

- ・教育・学習支援への取り組み
- ・私情協ニュース
- ・賛助会員だより
- ・海外ニュース「ITと大学教育」

流通科学大学／上智大学

### (3) 会誌「大学教育と情報」のホームページへの掲載

大学・短期大学の関係者さらに広域的に伝達するため、会誌をホームページに継続して掲載した。

### (4) 海外情報の翻訳

話題性のある海外情報を翻訳または抄訳して機関誌に掲載するため、翻訳分科会で和訳と監訳を行った。翻訳内容の選定は、事業普及委員会の要請で翻訳分科会が担当することになり、EDUCAUSEの雑誌や報告書の中から、機関誌の趣旨にふさわしい教育へのIT活用の視点から、20年度はECAR (EDUCAUSE Center for Applied Research) が発刊する調査報告書「ITと大学教育 (IT and the Academic Experience)」の一部を翻訳することにした。翻訳は、EDUCAUSEの承諾を受けた後、分科会委員の2名が原文を分担して翻訳し、さらに2名が監訳した。訳文は、機関誌のNo1. 17 No. 4に掲載した。なお、翻訳内容の選定の際に、上記の報告書以外にも提案した翻訳候補については、21年度以降に翻訳し、機関誌に掲載することになっている。

## 4-2 インターネットによる情報公開・配信

本協会事業の活動について可能な範囲で、Webサイト及びインターネットによる配信により国及び社会、大学関係者に対して情報を公開・配信している。とりわけ本協会が実施する大会、発表会、会議、研究講習会等の資料、映像をファカルティ・ディベロップメントの資料として、ビデオ・オンデマンド化し、希望する加盟校、賛助会員を対象に実費で配信している。コンテンツは18年度216件、19年度185件、20年度161件、の562件とした。コンテンツの使用環境は、Producer for PowerPoint2003で作成しているが、PowerPointがインストールされている必要はない。

20年度分の配信分担金は、正会員31,500円から52,500円、賛助会員一律42,000円、20年度と19年度分は正会員34,650円から57,750円、賛助会員一律46,200円、18年度分は無料として、加盟校の教職員、賛助会員を対象に利用人数無制限で配信することにし、参加申し込みは、随時可能でWebから行うことにした。

以上の他、委員会の内、学系分野ごとのFD/IT研究委員会、サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会について、事業活動を社会にオープンにするため、議事概要をWebサイトで公開している。